

がん化学療法レジメン登録票

新規レジメン登録の際にはプロトコルの提出が必須です
プロトコルがない場合は参考文献を提出してください

レジメン名	デュルバルマブ(根治的化学放射線療法後)
診療科名	呼吸器内科
診療科責任者名	大槻 歩
適応がん種	切除不能な局所進行の非小細胞肺癌における根治的化学放射線療法後の維持療法
保険適応外の使用	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無

がん治療ワーキンググループ使用欄	
登録番号	NSCLC-66
登録日・更新日	登録日:2018年10月23日 更新日:2018年12月25日、2023年12月25日
削除日	
出典	イミフィンジ添付文書 N Engl J Med 2017;377:1919-29
入力者	塚田 麻実

投与順に記入(抗がん剤のみ)

No.	薬剤名:一般名 (薬剤名:商品名) 希釈液	規格	投与量算出式	投与経路	投与時間	施行日
	デュルバルマブ(遺伝子組換え) (イミフィンジ点滴静注) 生理食塩液					
No.1	デュルバルマブ(遺伝子組換え) (イミフィンジ点滴静注) 生理食塩液	120mg、500mg 100 mL	1500mg/body	<input type="checkbox"/> IV <input checked="" type="checkbox"/> DIV <input checked="" type="checkbox"/> CVポート <input type="checkbox"/> 側管 <input type="checkbox"/> その他()	60分以上	day1

1コースの期間	28日										
投与間隔の短縮規定	<input checked="" type="checkbox"/> 短縮可能(1日)・ <input type="checkbox"/> 短縮不可能										
計算後の投与量上限値	110%										
計算後の投与量下限値	50%										
減量・中止基準	<p>【開始基準】 ANC>1500/mm³、血小板>10万/mm³、ヘモグロビン≧9.0g/dL、Ccr>40mL/min、血清ビリルビン≦1.5mg/dL、AST≦82.5U/L、ALT≦105U/L</p> <p>【過度の免疫反応による副作用に共通して注意する事項】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>CTCAE v4.03</th> <th>Grade1</th> <th>Grade2</th> <th>Grade3</th> <th>Grade4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本剤の処置</td> <td>投与継続</td> <td>Grade1以下になるまで本剤を休業</td> <td>Grade1以下になるまで本剤を休業 ・<u>毒魚の重篤性によって</u> は投与を永久に中止</td> <td>投与を永久に中止</td> </tr> </tbody> </table>	CTCAE v4.03	Grade1	Grade2	Grade3	Grade4	本剤の処置	投与継続	Grade1以下になるまで本剤を休業	Grade1以下になるまで本剤を休業 ・ <u>毒魚の重篤性によって</u> は投与を永久に中止	投与を永久に中止
CTCAE v4.03	Grade1	Grade2	Grade3	Grade4							
本剤の処置	投与継続	Grade1以下になるまで本剤を休業	Grade1以下になるまで本剤を休業 ・ <u>毒魚の重篤性によって</u> は投与を永久に中止	投与を永久に中止							
前投薬	なし										
その他の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 投与期間は12カ月間まで 体重30kg以下の場合の1回投与量は20mg/kg(体重)とする 無菌の蛋白結合性の低い0.2又は0.22µmインラインフィルター(ポリエーテルスルホン製等)を使用 生理食塩液又は5%ブドウ糖注射液の点滴バッグに注入し、最終濃度を1~15mg/mLとする PD-L1 発現率により有効性が異なることが示唆される結果が得られていることから、PD-L1 発現率も確認した上で、本剤の投与可否の判断をすることが望ましい。PD-L1 発現率が1%未満であることが確認された患者においては、本剤の投与の必要性を慎重に判断すること。 【免疫チェックポイント阻害剤の注意事項】を参照すること 										

記入者	伊勢崎 竜也
確認者	大槻 歩